

日本のブローチ宣言第1号 榎本日出夫 日立戸榎子

私のバスケット狂書

その (11)

「スカウトに行て、いくなひが怖ろしい目も合ひました。それが上へ思ひ出た強固なことがあります。これに強固なもので年よも考へ見たこととが度々あてて、ひひ時には大卒出たの年頃に見れば、大卒な娘を預けるには不都合が許すさるなといわれ、お許しをなせ、自分の考え方のすべて開、納め、そして安心して」

「とディー作りをはじめた。それにあてて肉体的な操縦は拙つたものの親つたの環境で育ち、性質の過人人間が短間で私のやり方、考え方同化してれるとは考へてもなかつたので、最終私にうかう考へたバスケに取り組めよう。君なバスケのメットに出てる時には、このくらいの気持ちを出きて教しめな、プレイヤーといふことも過つた反応を示すものなり」とひとつの注意するなりひひに感心したりしたことがありました。そして、こんなにも興なこの反応をする人間が、まづ本當にひひとりがあつた動をしてくれるようにするの、まどうしたら、まどうさうになのかといふ」

生きた働きをするデューンを作ろうとすれば然る出づる問題のような気がしました。

デューンに集まつた人達が自分のデューンのため汗と水と血とを流す時、そのプレッシャーは、そしてその人達の心がどうしたら、よすことだから、活発、動くようになるのか、この問題は作られたデューンが解決し、よいものだから強い働きをして欲しいという願ひからいへばどうしても動かし解決などではないにござりました。

私はプレッシャーがコートに出てる時、なにを考へて出くのだからか考へました。三時間の練習が、とにかく流れ

あとと思ひますが、たまたまよくても効果はありませぬ。

そして身につける内容としては筋肉運動の正しい習慣は、即ちシューとパスを連に行かなくてはならないに、筋運動がその狂ひもなやつつけられそうに習慣付けることがそれです。

もう一つ、これは同時に必要筋力の強化を含めます。心霊習慣づける内容としては、即ち敵味方の情勢に応じ、つぎの身のなし、ボールさばき、ハンドパスをそれとフエンスの要々つて、こつうパスが出るものと正確

即ち、話のし一般的なものだが、ここが即ちの免許取得とやうな決りごとが大分あります。はめておいて、

ハンドルを握る車を動かした時、自分の能力で手足をバラバラに動かす技術を得る、それから、もう一歩の事、多量な練習を自分で安全運転でまたどうか必ず必ず一度は考へては

「ここは難かしいな」大分だんだん「出来るが」という肉離れの発生します。

しかし、ここであきらめ、自分の決心を排拒せず、自分はいは、これは又々々々の免許取得といひです。そこでこの困難を取り組むが大分には

# 「異質の人間集団との出会い」

練習に取り組む心の確立へ

集まり出した有望選手

いまでは、この新聞のようにマスコミを通じて年齢や前歴などが明らかになっているのです。そういうことはほとんどなくなりホッとしています。スカウトの成果が出てきて、よい選手もボツボツ集まってきこくれるようになり、日本リーグ入りした時のチームを第一期とすれば第二期、いわゆる日本一を目指す

榎本日出夫

武蔵中学（東京）、武蔵高校（同）、武蔵大学（同）をそれぞれ卒業。  
現在、女子寮寮団チームの日立立塚コーチ。昭和十六年七月七日生まれ  
△現住所▽横浜市戸塚区舞岡町二二一〇一六  
電話〇四五（八三）二七〇九番。

い。それ他、着たものの皺のつながらたるはむかから」とうりやち内容のプリントをさくしーやに渡した。

それが「観習に取り組む心」の出発点という題名のものではなかつた。

これから取組かに分けて、それをリポートしていきたく思っています。

「観習に取り組む心の出発点」

とが私のティール作りの発端で、私が最初にしたことは、くどくど練習を告しいことをきくと、観習させなくてもしーやが納得しやつてくれた。では能率を確保にかつてしまひ、練習をしてもらつておけひないといふことだ。考えてみれば真なる環境で育った性無も寧ろそれだけのプレッシャーが来つて、本当に二人一人が

は、凡人結ぶたあとでのニー  
スを飲むためトレビアのボケ  
ットに十四年居させて、それ  
ばかり氣になつてレーヤ、な  
色といふまでした。

これでは親がはかどき眠は  
ないのが當り前す。「親習に  
取組む心」が欠けてゐるとい  
うことです。それでは「親習に  
取組む心」とはなんなのだろ  
うか、といふことなのです。  
が、その問題とは、いった

随分早くやつてのけることを  
目標とせよ、同時に心を正  
に判断下し、

中核の内容を感ずるのが要ら  
れます。

そして最後に心の習慣づけが  
最も悪いまし、これは実は  
最大切な處があるやうでも  
感じています。われわれは何か  
をやつてのげちとするたびに  
度を出さなくては、それ素直  
こころの相違困難があると

[illegible]

練習とはひとと新しく練習を身につけたための繰り返しの過程、返すべきだと思えます。また勝たぬものとだいたい似て、練習のなせるべきものかと思えます。しかし、そういうところもなにかと思えます。

〈続く〉

続

必要な困難にぶちあたる努力

# BASKET BALL IS MY LIFE